

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「宇治拾遺物語」 検非違使忠明」 問題

これも今は昔、忠明と^①いふ^レ検非違使^②あり^アけり。それが若かり^イける時、清水の橋のもとにて京童部どもといさかひを^③し^ッけり。京童部、手ごとに刀を^④抜きて、忠明を^⑤立てこめて

^⑥殺さ^エむと^⑦し^オければ、忠明も太刀を^⑧抜きて、御堂ぎまに^⑨上るに、御堂の東の端にも、あ

また^⑩立ち^テ向かひ合ひ^カたれば、内へ^⑫逃げて、部のもとを脇に^⑬挟みて前の谷へ^⑭躍り落つ。

部、風に^⑮しぶか^キれて、谷の底に、鳥の^⑯居る^クやうに、やをら^⑰落ち^ケに^コければ、

それより^⑱逃げて^⑲往に^サけり。京童部ども谷を^⑳見おろして、^㉑あさましがり、^㉒立ち並みて

^㉓見^シけれども、^㉔す^スべきやうもなくて、^㉕やみ^セに^ッけりとなむ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「宇治拾遺物語」 検非違使忠明」 解答

ハ四体

ラ変用 過去

過去

これも今は昔、忠明と^①いふ検非違使^②あり^アけり。それが若かり^イける時、清水の橋のもと

サ変用 過去

カ四用

マ下二用

にて京童部どもといさかひを^③し^ウけり。京童部、手ごとに刀を^④抜きて、忠明を^⑤立てこめて

サ四用 意志

サ変用 過去

カ四用

ラ四体

^⑥殺さ^エむと^⑦し^オければ、忠明も太刀を^⑧抜きて、御堂ぎまに^⑨上るに、御堂の東の端にも、あ

タ四用

ハ下二用

完了

ガ下二用

マ四用

タ上二終

また^⑩立ちて^⑪向かひ合ひ^カたれば、内へ^⑫逃げて、葎のもとを脇に^⑬挟みて前の谷へ^⑭躍り落つ。

カ四用 受身

ワ上二体 比況

タ上二用 完了 過去

葎、風に^⑮しぶか^キれて、谷の底に、鳥の^⑯居る^クやうに、やをら^⑰落ち^ケに^コければ、

ガ下二用

ナ変用 過去

サ四用

ラ四用

マ四用

それより^⑱逃げて^⑲往に^サけり。京童部ども谷を^⑳見おろして、^㉑あさましがり、^㉒立ち並みて

マ上二用 過去

サ変終 可能

マ四用 完了 過去

^㉓見^シけれども、^㉔す^スべきやうもなくて、^㉕やみ^セに^ッけりとなむ。